

豊洋精工株式会社

代表取締役 清原 昌巳

事業内容 デジタルカメラ・自動車部品等の製造
(射出成形・蒸着・塗装・印刷・組立)



本社 社屋

ポリテクセンター大分を利用して

当社とポリテクセンター大分は、従業員一人ひとりの職業能力のレベルアップと技術改革に伴う知識・技術の高度化・複合化に対応した人材育成を目的とした教育訓練（在職者訓練）として、能力開発セミナーを開催した。

1. 取り組む課題

- ・ 社員自らが機器等の改善を行うこと、また改善・交渉する上での着眼点を深めること、サプライヤーとしての地位を高めること、自らが作業の合理化、省力化ができるようにすることを目指す。
- ・ 単発的な教育訓練ではなく、継続的に長いスパンで社員の教育訓練を行う。
- ・ 技術部門の社員のスキルアップ、レベルアップに伴い、企業全体の技術力の底上げを行う。

2. 取り組んだ内容

- ・ 機械関係、電気制御関係のセミナーを計画した。具体的な内容として、現場で使っている治具を題材にして、各部品の機能分析を行った。また、設計から、部品作成、制御作動等、一連の作業を行い、現場に即した内容で実施した。
- ・ 自身でプログラムを作成し、実際に作動させてみる作業を行った。
- ・ 課題に対して、様々な視点で考えられるように、グループ討議をする時間を設けた。



教育担当者の声

今回、初めてポリテクセンター大分を利用して教育訓練を行いました。仕事との日程調整等に苦労しましたが、社員のためによかったと思います。

3. セミナーを受講した方の感想等

- ・ 治具製作に協力できる。
- ・ 以前治具を製作する際、エアシリンダー等の打ち合わせを行ったが、細かい内容を持って説明できなかった事や、計算による部品図の組立て役に立つと思った。
- ・ 社内でもシリンダー等を多く使用しているが、なぜそのシリンダーなのか、どういったシリンダーを使用するのか学べた。
- ・ 工具の仕様により必要な部品選びについて、弊社で作成していた工具に不要なオーバースペック機能が付いていることに気づけた。
- ・ 部品の選定ができる、業者との打ち合わせもスムーズ。オーバースペックがわかる。
- ・ シリンダーの種類を選定する際の根拠がわかった。
- ・ 自分たちで構想を検討し、図面にする知識を得た。
- ・ 製図側と加工側の考え方がわかってよかった。
- ・ 工作機械を使用して、どのような加工が行えるのかを学び、考案している治具への可能な範囲や精度を出すことがどれだけ難しく、加工にコストがかかることを学びました。
- ・ 電気回路の難しい知識を得ることができた。
- ・ 治具等製作にあたり、部品の選定方法等の知識幅が広がった。
- ・ 自分で作成したプログラムを実際の工具で動作を確認しながら修正/追加できたので、今後の治工具作成時に生かせると感じました。
- ・ 業者との交渉がスムーズに行えるようになった。
- ・ 自分の動かしたいように、プログラムを組むことができた。
- ・ 実践的なPLC制御、プログラム入力を行えた。